

多文化共生会議

1 【経緯】

近年の外国人市民の増加により、大和市においても、さまざまな国際化への取り組みが実施され、多くの成果をあげてまいりました。

しかしながら、その取り組みの多くは、主に働いて母国にお金を送金するため来日した外国人に対して、通知文書の翻訳など一時避難的な対策が多く、長期的な大和市の国際化施策が見てとれるものは多くありませんでした。

現在、外国人市民の多くが「働く」から「暮らす」へと意識を変化させています。そして、それにより、地域の国際化に対する考え方も変革を求められています。

こうした背景の中、私たちが、財団法人大和市国際化協会は、大和市における国際化に関する取り組みを今まで以上に充実させ、同じ地域で暮らす住民として、現在、そして、未来に日本人と外国人が共存・共生していくための短期的・長期的な国際化の取り組みの必要性を感じています。そして、さらに、今後、日本人市民と外国人市民が同じ大和市民として共に考え、行動する「場」をつくること、日本人市民と外国人市民がお互いに地域レベル・日常レベルでの情報及び意識を共有すること、行政と市民が「協働」して国際化に関する施策を考えていくこと、が大切であると考え、この会議を組織し、今後の大和市における国際化施策に反映させていきたいと考えております。

2 【目的】

日本人市民と外国人市民が同じ地域に暮らす住民として、共存・共生できる地域づくりの指針・方向性を示す。

定住化が進む外国人に対し、地域社会に適応していくために、彼らの意見を聞き、行政に反映させる土台づくりとする。

日本人市民と外国人市民が同じ大和市民であるという意識を共有する場とする。

3 【基本コンセプト】

市民全体の国際意識高揚のために

登録ボランティアの積極的活用を図るために

外国人市民のさまざまな場面での市政参加への足がかりとするために

多文化共生社会の実現を目指すために

4 【進め方】

外国人市民及び日本人市民をメンバーとした、共生社会に向けた検討会議を組織し、話し合いを行う。

5 【意見】



国際化協会の事業の展開に反映。

大和市の国際化推進担当部署へ意見を提出。

行政への提言という形を取りたい。



日本人市民と外国人市民が同じ地域に在住する市民としての施策の構築を目指す。

「多文化共生社会の実現」に向けた施策の総合化・体系化を目指す。

6 【 会議の委員 】

17名（日本人8名 外国出身9名）【カンボジア出身1名・中国出身3名・ペルー出身1名

パラグアイ出身1名・フィリピン出身2名・アルゼンチン出身1名】

7 【 スケジュール 】

「多文化共生社会の実現」に向けた多くの課題を抽出。【日本人市民の求めていること、外国人市民が求めていること、同じ地域の住民としてしなくてはならないこと】

問題・課題を整理し、テーマを絞り込む。

今後、取り組むべき、事業・施策を検討し、行政等に意見を提出。

第1,2回 趣旨説明・現状把握・現状分析

第3,4回 問題・課題の再認識と検討

第5,6回 問題・課題等についての調査研究

第7,8回 課題等に対する施策テーマの選定

第9,10回 選定テーマに対する事業・施策を検討し、検討した結果を行政等に意見として提出。

問題・課題について調査・研究した結果、すぐに対応できる事業・施策は、随時、行政等に意見を提出。【できることは、すぐにも】

短期的・長期的視点をもって、施策を検討。

委員の任期等の問題はありますが、テーマで取り上げられなかった課題については、次年度等に引き継ぐ形で進行。

さらに、取り上げたテーマについては、行政等にどう反映されたかの効果測定を実施。

【検討・計画・実施・評価のサイクルで実行していく】

8 【 使用言語 】

会議の進行は、日本語で行います。

9 【 任期 】

2005年2月27日 から 2006年3月31日

10 【 その他 】

この会議の委員としての活動は、ボランティアとしてお願い致します。



では、^{な ぶん か きょうせい かい}多文化共生社会とは？

【^{めい じ だいがく しょうがく ぶ}明治大学商学部教授 ^{やまわま けい ぞう}山脇啓造 ^し氏】の定義

^{こく せき}国籍や^{みん ぞく}民族などの^{こと}異なる^{ひと びと}人々が^{たが}互いの^{ぶん か}文化の^{ちがひ}ちがいを^{みと}認め、^{たい とう}対等な^{かん けい}関係を^{きず}築こうとしながら、^{とも}共に^い生きて
いく^{しゃ かい}社会。

